

11 放射線から体を守る

11 放射線から体を守る

問題 万一、大量の放射線を受ける危険があるとき、放射線から体を守るにはどうしたらいいか、()の中をなぞりましょう。

1 放射性物質から離れるほど、放射線は(弱くなる)という性質があります。放射性物質から十分に離れば体を守ることができます。

2 放射線を受ける時間を(短くする)ことも体を守るのに有効です。

3 コンクリートなどの放射線を通しにくい建物に入り、放射線を(さえぎる)ことも大切です。また、外の放射性物質を室内に入れないように、ドアや(窓)などを閉めるようにしましょう。

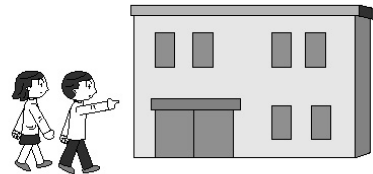
・放射性物質から距離をとる



・放射線を受ける時間を短くする



・コンクリートなどの建物の中に入る



11

学習のポイント

- ①放射性物質から離れると、放射線は弱くなる。
- ②放射線をあびる時間を短くすれば、被曝を少なくできる。
- ③放射線をさえぎれば、被曝を少なくできる。

指導上の注意点

- ①このページにあることは、大量の放射線をあびる危険が生じた場合の対処方法である。
- ②原子力発電所の事故現場で作業員が着ている白い服は、放射線をさえぎるためではなく、服を使い捨てにして、服についてた放射性物質を生活の場に持ち込まないようにするためである。
- ③マスクも同様で、放射線は防げないが放射性物質を体に取り込むのを防ぐことができる。

補足

- ①放射線被曝を防ぐ3原則が、「時間」「距離」「遮蔽(しゃへい)」である。
- ②原子力発電所の事故現場で作業する人は、この原則に従って被曝量を増やさないようにしている。
- ③どれくらいの放射線をあびたかは、線量計を身につけておくと測定できる。